



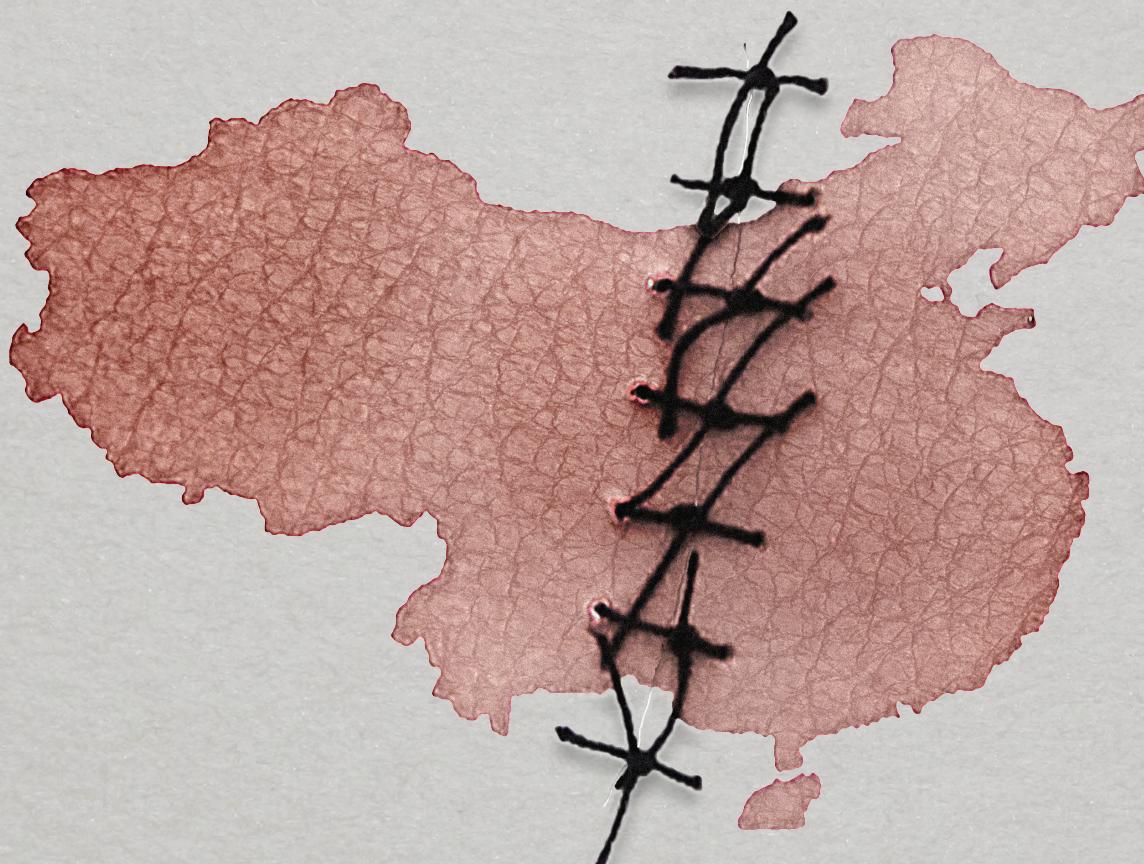
CHINA ORGAN HARVEST
RESEARCH CENTER

UPDATE ON

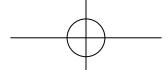
MEDICAL GENOCIDE

メディカル・ジェノサイド 更新版

中国での移植濫用—まやかしの改革



中国臓器収奪リサーチセンター



中国臓器収奪リサーチセンター

2018年報告書のまえがき

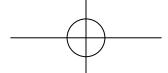
ニューヨーク大学 医療科

Drs. William F. and Virginia Connolly Mitty 生命倫理学教授
医療倫理部長
アーサー・L・キャプラン

中国は急速に医療とライフサイエンスでの能力を発展させた、高度に洗練された国家である。中国の臓器移植業務の年月は比較的浅いが、音を立てずに世界最大の国家として興隆している。不幸にも、国内需要および国外からの移植ツーリズムの要請に応えるための臓器獲得の政策は、中国の移植医療界の技能や専門知識に追いついていない。この丹念に裏付けられた傑出した報告書が示すとおり、中国では今なお、人権侵害を許し、自国の民族をぞんざいに扱い、移植臓器獲得のための殺人が許されている。

臓器移植技術の到来において、中核となるモラルの規定が明確に定められた。死体からの移植臓器の使用では臓器摘出前にドナーが死亡していなければならないという規定である。さらに、移植チームは、ドナーの死を意図的に誘引してはならず、臓器のために殺害されたことが分かっている人間の臓器を受け入れてはならない。「死亡したドナーの臓器を用いる規定」として知られるこれらの側面は、国際的な移植医療界や移植分野に関わる専門家協会で認められており、死体からの臓器摘出を認める各国政府が規定として求めるものである。この報告書が示す通り、(中国側はこの反対を主張するが) 中国では死体からの臓器摘出を行うまでの倫理・法的義務が遂行されていない。

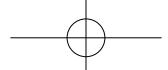
中国では、死体からの臓器摘出制度の整備が欠如している。脳死を認める法律はない。この報告書に収録されている多くの証言や経緯が示すように、中国では、国内での使用、および自国で迅速に移植が受けられない国外の患者への売却のための臓器の供給を、処刑された囚人からの臓器の流れに依存し続けている。



処刑された囚人を臓器獲得のために利用することは多くの点で道徳的に受け入れられるものではない。死亡後に自分の臓器を提供するという説得性のある合意が、処刑に選ばれた囚人から得られることはない。囚人の合意を実証する、独立した権威ある機関の監視は存在しない。囚人は殺害され、脳死やドナーとしての人道的な扱いにはほとんど注意は払われずに臓器が摘出される。世界の法的・倫理的専門家にとって死刑の法的根拠として受け入れられない理由で、処刑・殺害される者もいる。特に、政治的、宗教的、あるいは精神的信念のために囚人が処刑される場合である。

世界の移植医のコミュニティーと各国政府が読むべき報告書である。中国の移植医療がどれほど優れた技能を示しても、「人体部位のための殺害」政策を続けるのなら、移植手術・医療研究・医療会議から中国は排斥されることを明確にしなければならない。中国の移植臓器取得方針の中核に、基本的人権へのおぞましい侵害がある。倫理的な死体からの臓器摘出には、殺害の要素は存在しない。この報告書を読み、不正を停止するよう自国の政府にはたらきかけてもらいたい。

アーサー・L・キャプラン Ph.D.



小冊子の改訂版発行にあたって

中国での臓器移植濫用は、欧米の学者、メディア、政府機関が長年にわたり懸念してきた問題である。囚人の臓器の使用に、移植界では国際的に熱い論議を呼んでいる。

2015年、中国は「死刑囚からの臓器摘出を停止し、倫理的な臓器源へと完全に切り替えた」と主張¹。以来、国際的なPR活動が行われ、偽造データ、効力のない計画のプレゼンテーション、中国の病院への国外の専門家の招聘を通して、多くの国際的な移植機関や政府が「臓器提供と移植に関する中国モデル」や中国が成し遂げた改革を受け入れている²。

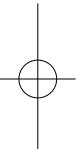
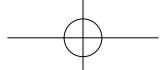
しかし、2017年10月、韓国の大手テレビ局が中国最大手の移植センターである天津の東方臓器移植センターに調査ジャーナリストを送り込んだところ³、中国政府の主張とは真逆に、数日から数週間で臓器入手が可能と言われた国外の患者が、中国に群れをなして渡航していた。患者からの金銭的な「寄付」があれば手術は前倒しにされるということだった。国外の患者は近くのホテルにも収容されており、同センターの年間移植件数は数千件と推定されている⁴。

現在の中国での臓器移植制度における、規模、オンデマンドの性質、豊富な臓器源を示す一例である。現在行われているオンデマンドの移植件数を満たすには、自主的ドナー数はあまりにも少ない。国際社会のオブザーバーは、中国での改革は「言葉のあや」に過ぎないと懸念している⁵。

それでは一体、中国の臓器移植産業はどのくらいの規模でどのように発展してきたのだろうか？倫理的な臓器移植の枠組みに、どの程度まで転換したのか？囚人の臓器がオンデマンドで取奪されている証拠はあるか？中国での大量の移植件数が自主的臓器提供では支えられないとする、他に考えられる臓器源は何か？何がこれほどまでに移植濫用を駆動させているのだろうか？

これらの疑問に答えるため、「中国臓器取奪リサーチセンター」(COHRC)の調査チームは、中国の移植病院、政府・業界の声明、方針、法規、メディア報道、さらに中国の臓器提供および移植制度の経緯・運営について数百の文献を詳査した。

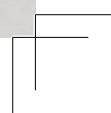
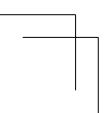
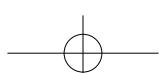
2018年報告書は、過去の調査を更新し、最近の動向や新たに入手した証拠を取り入れ、上記の疑問に光を当てた。この改訂版の小冊子は2018年報告書を反映するものである。

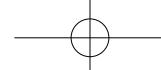


*2018年報告書の全文（英語）は ChinaOrganHarvest.org へ。

文中の注番号に関しては <https://www.chinaorganharvest.org/ja/> 資料のダウンロード / に脚注付 PDF を収めております。ご参照ください。2018年報告書の「趣旨 / 概説」の邦訳もこちらにございます。

また、英語原文の2018年報告書全文および2019年報告書は英語サイトの FINDINGS からお読みいただけます。

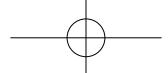




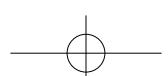
目次

1. 背後の情報	8
2. 中国でのオンデマンドの臓器移植制度	10
・ 2000 年以降、急成長を遂げた中国の移植産業	
・ オンデマンドによる臓器移植	
3. 大量の移植件数	12
・ 2006 年に国際的な注目を受けた後も成長	
・ 公式発表を数倍上回る実際の移植件数	
4. 最新の動き	14
・ 2017 年の現地調査	
・ 持続する豊富な臓器源	
・ 成長のための意欲的な計画	
5. 不可解な臓器源	16
・ 死刑囚	
・ 一夜にして自主的ドナーに移行	
・ 臓器ロンダリングのための臓器提供・分配制度	
6. 犠牲者	18
7. 国家が駆動する犯罪	20





8. 世界への拡張と影響	22
• 中国移植センターへの初めての公開訪問	
• 世界への拡張	
• 世界への影響	
9. 臓器移植濫用の経緯	24
10. 信じ込まされていることと事実信じ込まされていることと事実	26
• 「2015 年以前は、臓器源のほとんどは有罪判決を受けた死刑囚だ」	
• 「2015 年以降、自発的ドナーが主な臓器源になった」	
• 「中国での免疫抑制剤の使用量から、年間 1 万件以上の移植数は裏付けられない」	
• 「医師は生きている人々から臓器を強制的に摘出することはできない」	
11. 世界の対応	28
• 法規	
• 決議案	
12. 具体的な行動	30



背後の情報

中国での臓器移植産業は比較的年数が浅いが、自発的な臓器提供の欠乏にもかかわらず、2000 年以降わずか数年で急速に世界でも最も多産に臓器移植が行われるようになった⁶。

2006 年、中国全域の拘束施設や病院で、利潤の高い巨大な臓器移植産業に臓器を供給するためオンデマンドで良心の囚人が殺害されてきたという疑惑が初めて明るみにされた⁷。

以来、国外の調査者たちがこの疑惑に関して調査を続けている。デービッド・キルガー氏（カナダの元アジア太平洋担当国務大臣）とデービッド・マクス氏（人権弁護士）は「疑惑は事実であるという遺憾な結論」を報告し、後にその調査結果を『中国臓器狩り』（Bloody Harvest）と題する一冊の著書として発行した⁸。

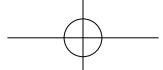
この調査報告にもかかわらず、中国での移植産業は、翌 10 年にわたり急成長を続けた。違法な臓器源の関与なしでは説明のつかない量であった。

2016 年 6 月、国外の調査者が力を合わせて中国全域の数百軒の移植病院を調査し更新された報告書を発表⁹。680 ページ、脚注ほぼ 2400 項目の同報告書は、中国での臓器移植濫用の性格と規模を露呈し、下記の結論に至っている。

「移植臓器入手するため、中国共産党は国家を無実の人々の大量虐殺に従事させてきた。対象は主に精神修養の法輪功学習者であるが、ウイグル人、チベット人、一部の家庭教会の信徒も含まれる¹⁰。169 軒の移植認定病院が政府の



2006 年 4 月 20 日、ホワイトハウス前での集会に現れた証言者。中国で強制臓器収奪が行われていることを公表した。



義務付ける最低要件を満たすものとすると、年間1万件という公式発表とは対照的に、年間6万から10万件の移植が行われた可能性が算出される¹¹」

イスラエル、スペイン、イタリア、台湾では、自国民が中国に渡航し、違法な臓器源による移植手術を受けることを防止する法律を通過させた¹²。

無実の良心の囚人を臓器のために殺害することを譴責する決議案が、米下院議会(H.Res.343)と欧州議会(2013/2981(RSP))で通過し¹³、米国議会、英国議会、欧州議会、カナダ議会では公聴会が行われた。

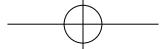
人権団体フリーダム・ハウスは、2017年に報告書を発表した。「拘束された法輪功学習者が臓器のために大規模に殺害されていること・・・を示唆する信頼のおける証拠」を同団体内で見直し「若いウイグル人の大規模な失踪、ウイグルの政治犯からの定期的な

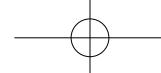
血液検査、拘束中のチベット人とウイグル人の怪死の報告から、これらの人々も強制臓器収奪の対象とされている可能性があると警鐘を鳴らすべきである」と加えている¹⁴。

中国による移植臓器のための殺害は、世界のメディアが注目し始めている。

「中国[共産党]政権による、個人の自由を剥奪し、強制労働所や牢獄に監禁し、処刑し、移植のために臓器を収奪するという残忍で非人道的な行為は、理解の範囲を超えるものであり、普遍的に反対され、無条件に停止すべきである」

— 米下院議員 共和党 フロリダ州代表
イリアナ・ロス=レイティネン





2

中国でのオンデマンドの臓器移植制度

2000 年以降、急成長を遂げた中国の移植産業

中国での臓器移植の研究と臨床試験は 1960 年代にさかのぼる¹⁵。しかし、2000 年以降、移植産業は急成長の時代を迎える。

1999 年以前の中国本土では、移植病院数は 150 軒だったが¹⁶、2007 年には中国衛生部に移植認定を申請した病院は、1000 軒以上に上っている¹⁷。肝移植は 1999 年から 2000 年の間

に 10 倍、2000 年から 2005 年の間に 3 倍に増加した¹⁸。

当初は国内需要に応えるためだったが、移植件数の急増は、国外からの移植ツーリズム・ブームをもたらし、中国は、生命維持に欠かせない臓器を必要とする者のためのグローバル・センターと化した¹⁹。

オンデマンドによる臓器移植

中国での臓器移植は、生体源からの臓器摘出であり、移植手術の日程は事前に組まれ、ほとんど待ち時間がないオンデマンドで行われていることが調査者により明らかにされた²⁰。臓器不適合で別の臓器が必要な場合、医師は 1 人の患者のために数個の臓器を確保できる²¹。1 人の患者者が 1 つの臓器のために数回移植手術を受ける

ことも珍しくない²²。病院は 1 日に複数の移植手術を定期的に行う²³。1 つの部門で 24 時間に 10 件もしくは 20 件の腎移植を行うことは、もはや特別な業績とはみなされない。

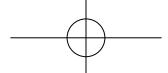
臓器移植は文化的にタブーであり、効果的な臓器提供制度が存在しない国で、なぜこのようなことが可能なのだろうか？

事前に組まれる移植手術の日程

移植手術は事前に予定されるだけでなく、病院のプロフィール、メディア報道、その他の情報源から、事前の計画なしでは不可能な、数件の同時移植が行われていることが裏付けされている。

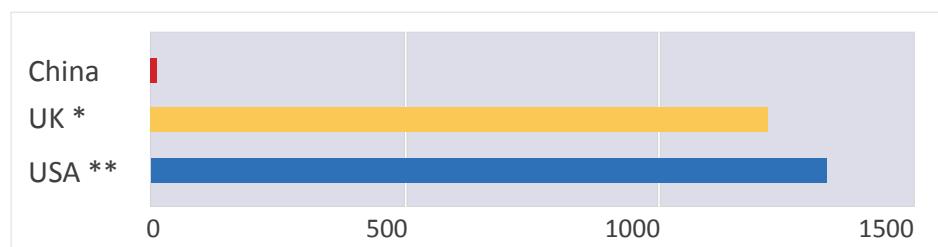
- 2005 年、イスラエルの患者が心臓移植を 2 週間後に受けるために中国に渡航した²⁴。
- 2006 年、肝移植 5 件と腎移植 6 件を同時に移植した病院があった²⁵。
- 2013 年のある日の午後、心臓移植 4 件を同時に行った病院があった²⁶。

- 2016 年、肝不全の患者が入院当日に移植手術を受けた²⁷。
- 2016 年、1 つの病院で 1 日に 16 件（心臓、肝臓、腎臓 10 件と角膜 6 件）の移植手術が行われた²⁸。
- 2017 年 10 月、待ち時間は数日か数週間で、金銭的な「寄付」があれば手術を早める病院があった²⁹。



待ち時間の短さ

腎臓移植の平均待ち時間（日数）



情報源：* 英紙 ガーディアン ** 米国腎臓データシステム

高度なヘルスケア制度と臓器提供・割当制度の整っている他国では、ほとんどの患者は移植手術のために何年も待機する³⁴。しかし2000年以降、移植が成功しなかった場合の再移植手術も含め、中国の病院は待ち時間を数日から数週間と謳っている³⁵。

2006年の中国の肝移植登録システムの報告によると、肝移植の25%以上が、臓器を数日ないしは数時間で調達する緊急手術であった³⁶。中国に臓器提供制度が全くなかった時期の報告である。現在中国は、臓器の自主的提供制度に移行したとしているが、死刑囚の臓器源に比べ、臓器の入手はより困難であるはずなのに、状況は変わっていない。

生体臓器源

中国では世界の他の場所と異なり、生体から生死に関わる臓器全てが摘出されること — つまり臓器提供を望まない「ドナー」の殺害 — は普通に見られる。

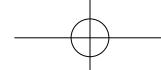
2009年以前の中国では、5分未満の温阻血時間(心停止から死体内冷却開始までの時間)での肝臓摘出は移植業界の標準だった³⁰。2010年以前、中国に臓器提供制度がなかったことを考えると、「心停止した身体」からこれほど短い温阻血時間で臓器を摘出することは不可能である。また、腹部の臓器を迅速に摘出するために、周辺臓器を同時に摘出する技術も開発された。この技術により、臓器の破損と温阻血時間をさらに減少させた可能性がある³¹。中国全域にわたり多くの病院でも幅広く用いられている方法である。

「私たちは生体腎移植を行っています。死体腎移植とは全く異なります…」「私どもの部門では、肝臓摘出において、温阻血時間を短縮し、臓器の拒絶率を下げ、移植臓器の機能回復を円滑にするために、腹部臓器の迅速な併合切開技術を採用しています」

— 中国国際移植ネットワーク支援センターの
アーカイブされたホームページより³²

「成功するまで移植手術を続けます。失敗の際の再手術は無料です」

— 「ドナーが適合するレシピエントを探しています」という広告を出す昆明腎臓病医院³³



3

大量の移植件数

2006 年に国際的な注目を受けた後も成長

中国での囚人からの強制臓器取奪の疑惑が 2006 年に国際的に注視された後、中国政府は、混沌とした犯罪市場を違法移植の原因だとし³⁷、中国衛生部は移植病院の認可制度を導入し 164 軒が認定された³⁸。一方、中国政府は系統的にデータを改ざんし、移植件数を抑えた³⁹。こうして、2007 年 7 月にほとんどの病院は臓器移植を停止し、中国での移植件数は徐々に減っているという偽りの印象が生み出された。

実際は、この新制度で衛生部の認定を受けた大規模な病院は、競合が減り政府の完全な支援を受け、これまで以上に大きく発展した。多くの非認定病院も移植手術を続けた。こうして中国での臓器移植は着実な成長を続ける⁴⁰。移植センターは大幅に拡張され、病床、新病棟、建物が新設されてきた⁴¹。

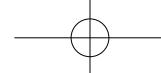
「中国の肝移植ビジネスは安定成長の時期に入りました。浙江大学附属第一医院の肝移植は繁栄し、2007 年には新設の建物に移動しました。肝移植はより系統的で、プロフェッショナルかつ大規模になってきています」

— 浙江大学附属第一医院の肝移植センター のホームページより（2011 年）⁴²

「発展のスピードは高速鉄道のスピードに追いつきました」

— 济南解放軍第 107 医院肝胆外科 副主任 杜英東（2012 年）⁴³





公式発表を数倍上回る実際の移植件数

2000 年以降、米国では年間平均 6000 件の肝移植を行っているが⁴⁴、これは中国の病院のわずか 2～3 軒での肝移植件数に過ぎない。例えば、主に肝移植を行う天津第一病院東方移植センターでは、移植専用の病床を 500 以上備え、年間 6000～8000 件の移植手術を可能としている⁴⁵。

中国が公式に発表する年間移植数 1 万～1 万 5 千

という数値は、数軒の病院での移植件数を合計するだけで超えてしまう。政府が要求する移植センターの最低の設備基準とその他のデータに基づき、164 軒の衛生部認定移植病院で、年間 7 万件以上の移植手術を行ってきた可能性が算出される。つまり、これらの認定病院では 2000 年以来、合計 100 万件以上の移植の施術能力があったことになる⁴⁶。

表：政府が要求する移植センターの病床数に基づく、164 軒の衛生部認定移植病院が施術できる最低移植件数⁴⁷

認定手術の種類	病院数	最低病床数	各病院の年間移植件数 *	種類別の年間移植件数総計 *
肝移植	21	25	300	6,300
腎移植	65	30	360	23,400
肝移植 & 腎移植	60	55	660	39,600
心臓 & 肺	18	15	180	3,240
合計	164			72,540

* 病床稼働率 100%、入院期間 1 ヶ月として算出

さらに 164 件の認定病院のほとんどで最低病床数は超過しており、病院によっては、数百の臓器移植用の病床を 100% から 200% の稼働率で使用している⁴⁸。

また、2007 年に 1000 軒以上の病院が移植手術病院としての認定を申請した事実も無視してはな

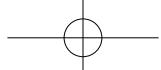
「私たちの病院では、ある年の 1 年間で肝臓と腎臓の移植を 4000 件行いました」

— 北京大学臓器移植研究所所長、朱繼業
(2013 年)⁵¹

らない⁴⁹。これらの病院も衛生部の要求する施術能力の最低基準を満たすことを示唆しており、その多くは認定なしで手術を継続している⁵⁰。これらの事実から、中国での移植手術の実際の件数は、政府公式発表の数倍と見込まれる。

「数万人の患者が、ここで腎臓と肝臓の移植を受けました」

— 中山大学附属第一医院 (2010 年)⁵²



4

最新の動き

2017 年の現地調査

2017 年 10 月、韓国の主流テレビ局が調査記者を中国最大級の天津中央病院の東方臓器移植センターに送り込んだ⁵³。

一般に患者の移植臓器の待ち時間は数日から数週間と同センターが語ったことを記者は報告している。

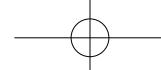
また、患者からの金銭的な「寄付」があれば、移植の日程が早まることにも記者は気づかされた。手術室は四六時中、使われていた。中国は国外の患者に対する移植手術を停止したと主張しているが、国際医療科だけでも、一日 8 件の手術が記者の到着前に行われていた。移植

用の 500 病床と 3 つの国際患者専用の移植病棟に加え、近くのホテルも国外の患者用に使われていた。これらの事実から、年間数千件の移植手術を継続していることが示唆される。

天津中央病院の東方臓器移植センターは、「現在の臓器源は一切自主的ドナーによるものである」という中国の公式声明後も、中国の移植産業では豊富に臓器入手でき、オンデマンドにより大規模に移植が行われていることが反映されていることを示す一例に過ぎない。さらに、中国の公式声明に反して、国外から中国への渡航移植は繁栄し続けている。



天津第一中央病院東方センターは、2006 年に移植専用の 500 病床を備えて開設。2009 年には病床の利用率 90%、2013 年には 131% に上昇し、さらに病床が増やされた。500 病床が 100% 稼働し、平均の入院期間が 3 ~ 4 週間とすると、同センターでの年間移植件数は 6000 から 8000 件に到達する⁵⁴。



持続する豊富な臓器源

2016年7月から2017年6月にかけて、100軒近くの移植病院を対象に電話調査したところ、ほとんどの医師、移植コーディネーターは、臓器は今も充分にあると主張。余剰の臓器があるとする病院もあった⁵⁵。ある病院では、最初の10人の登録児童に無料の肝移植を提供した。

脳死の定義に対する知識がほとんどないにもかかわらず、ほとんどの医師は「脳死したドナー」の臓器を利用しているので、処刑された囚人の臓器より質が良いと語った。また、彼らは中国人人体臓器分配共有制度(COTRS)へのアクセスがなく、ほとんどの移植用臓器はCOTRSからのものではないことも明らかになった。



肝移植を無料で10件提供（2017）⁵⁶

吉林トラベルラジオのCM

「これらの子どもたちの命が危険にさらされています。

数百万元相当の援助を提供します」

「こちらでは多くの臓器がしばしば入手できます。10代から20才までの質の高い臓器を用いますが…全ては使えません。たとえば、100個の臓器を入手しても、同センターでの移植手術は20件に限られる可能性があります」

— 南寧市の解放軍第303医院の臓器コーディネーター
寥吉祥 医師（2017年5月30日）

[国内の臓器分配制度は]すべて嘘です…ウェブサイトはすべてを賄うことはできず、形式に過ぎません…すべてのドナーは個々の病院が見つけます。国内の制度が分配することはできません。ウェブサイトへ入力ができないのですから、不可能です

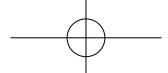
— 山東省の毓璜頂医院の腎移植コーディネーター
王理事（2017年6月10日）

成長のための意欲的な計画

中国での臓器移植への多大な需要のため、病院は収容設備を増加したが、それでも不十分である。中国の移植担当官としてトップに立つ黄潔夫は、臓器の欠如ではなく、有資格病院と経験豊富な医師の欠如が、移植件数を抑える起因であるとした⁵⁷。また中国で入手した臓器が他の地域でも使えるように擁護している。このことから中国には移植用臓器が豊富にあることが示唆される⁵⁸。

2015年以降、黄潔夫は様々な機会に、今後数年で移植認定病院を現在の169軒から300ないしは500軒に増やすという計画を発表している⁵⁹。2017年8月、中国は移植認定病院の数を増やし、2020年までには世界の移植のほとんどを行うと公言⁶⁰。2018年2月、政府は移植認定病院数を169軒から178軒へと増加させていく⁶¹。

充足した自主的ドナーや中国の移植制度における規則監督の欠如の中で、これらの進展が起こっている。



5

不可解な臓器源

2006 年以降の国際的な批判に応え、中国当局はほとんどすべての移植用臓器が死刑囚から来ていると認め、その後、自主的臓器提供に移行したとしている。

死刑囚

国際機関は中国での死刑囚の数は、2000 年以来、年間数千人と推定している。

しかし、処刑率は減少していると思われる⁶²。10 年後には、死刑囚の臓器に依存する移植は、「源のない流れ」⁶³となりつつあった。

一夜にして自主的ドナーに移行

中国には臓器提供制度がなく、2010 年 3 月に 19 の省と都市で初めて試験的に導入された⁶⁴。最初の 2 年間で提供された臓器はわずか 207 件に過ぎなかつたが⁶⁵、2013 年 8 月に全国規模の臓器割当制度である「中国臓器移植対応システム (COTRS)」へと拡張された⁶⁶。

2013 年 9 月の中国政府の数字によると、移植臓器の 23% は自主的に提供された臓器を使用している⁶⁷。その後、2014 年に黄潔夫は、移

植臓器の 80% は自主的臓器提供によるものとし、2015 年 1 月、中国は完全に死刑囚からの臓器利用を停止したと声明を発表した⁶⁸。他国が数十年かけて構築した臓器提供と移植の枠組を、わずか数年で成し遂げたと黄潔夫は主張している⁶⁹。

しかし、証拠を調べると、この奇跡的な臓器提供数の飛躍は、倫理的な臓器の入手という中国の「新時代」への橋渡しとして発案されたようだ。

倫理的な臓器源への信じがたい急速な移行

2010 年以前

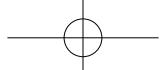
臓器提供制度なし
死刑囚と良心の囚人にはほぼ完全に依存

2010 年から 2015 年

2010 年：臓器提供制度の最初の試験的導入
2013 年：全国的な臓器提供 / 分配制度が開始
23% の臓器が自主的に提供されたとされる
2014 年：80% の臓器が自主的に提供されたとされる
2015 年：100% の臓器が自主的に提供されたとされる

2015 年から現在まで

2017 年末：中国での 373,536 名のドナー登録数は、年間数十人のドナーを生むに過ぎない。報告された各地域のドナー数（主に ICU での非登録のドナー）の合計は、公式発表の 15000 件の移植手術よりも遥かに少ない数。



臓器ロンダリングのための臓器提供・分配制度

移植件数を遙かに下回る臓器提供数

米国でのドナー登録者数と実際のドナー数の比率から算出すると⁷⁰、中国が広く公表してきた2017年末時点でのドナー登録者数373,536人⁷¹がもたらすドナー数は、実際には29人にも満たない。主にICUからの非登録ドナーからの臓器も、中国が主張するような移植制度の主要臓器源にはなりえない。各地域で報告されている（登録者、非登録者を含め

た）ドナー数の合計⁷²は、公式発表の移植件数にも及ばない。

中国での臓器提供を阻む長年の要因は、身体を切り刻むことへの伝統的な禁制、脳死に対する法的措置の欠如、倫理的な臓器提供を保証する法的枠組みの不整備、一般市民の医療制度に対する信頼の欠如が挙げられる⁷³。

抜け殻に過ぎない中国臓器提供制度

2015年末、黄潔夫は「国家臓器提供移植委員会は…名ばかりのものに過ぎない」と語った⁷⁴。2017年、黄潔夫は、米国での1500人に比べ、中国では臓器提供の行程を管理・監視する者は1人しかいないことを明らかにしている⁷⁵。

中国臓器移植対応システム（COTRS）は中国で

のドナーとレシピエント全てを管理するために設定されたが⁷⁶、2017年3月の時点で公式ウェブサイトに登録された臓器移植の待機登録者数は31,000人に過ぎなかった⁷⁷。2017年6月までに行われた電話調査によると、中国のほとんどの移植病院にはCOTRSへのアクセスがない⁷⁸。ほとんどの移植臓器はCOTRSからのものではないことは明確である。

違法臓器源の抜け穴を許す規制

中国では、臓器の入手先の選定・提供・入手・割当・移植を統治する基本法が制定されていない⁷⁹。運営方針や法規は、利権の絡む団体の多大な影響

下にあり、医療制度下で施行されではおらず、軍、司法、その他の移植手術に参与する機関を管理するものでもない⁸⁰。

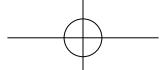
不透明な移植手術

中国の臓器取得機関（OPO）は、認定移植病院内に設置されている⁸¹。黄潔夫自身が「臓器の資源一すべてのレシピエントとドナー、臓器提供と移植手術の全過程は、病院内で行われる」と認めている⁸²。病院の運営上には監視者ではなく、非倫理的な臓器取得に携わる外科医が関わっている⁸³。

2017年、黄潔夫は、70%の臓器は脳死のドナーのもので、残りは、主に脳死後に心停止したドナーのものだと陳述した⁸⁴。しかし、2014年末の時点で、90%の中国の医師は脳死判定の基本的な手順

を認識しておらず⁸⁵、2017年も事情は変わっていなかつた⁸⁶。この矛盾は、中国で脳死判定の濫用が蔓延していることを示唆する。

中国の臓器提供制度と規則の枠組みの青写真はまだ実行に移されていない。死刑囚は、2015年に市民の自主的ドナーと再分類された⁸⁷。自主的臓器提供を合わせても、中国で行われているすべての移植件数のわずかにしかあたらない。広く公表された臓器提供・分配制度は、違法な臓器源を隠蔽するための体裁である。



6

犠牲者

1978年、中国の政治犯から臓器を摘出したことが臓器収奪の最初の記録である⁸⁸。1984年、特定の状況下で国家の自由裁量のもと、囚人の身体と臓器を使うことを許可する規制を、複数の政府機関と省庁が合同で公布した⁸⁹。その後、中国は、小規模で良心の囚人と少数民族の臓器を使い始める⁹⁰。

中国の移植産業は特に目立った発展をみせてはいなかつたが、2000年に臓器移植を国家戦略の中で優先し始め、研究・開発・产业化・養成にかなりの資金が注がれた⁹¹。

自主的臓器提供なしで臓器移植は飛躍的に増加した。これは中国政府が法輪功を撲滅させる

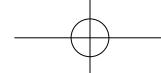
ための運動と並行している。

法輪功は心身を向上させる中国の伝統的な修煉方法で、真・善・忍の特質を遵守するように修める。1990年代末までに、中国政府は7000万人以上が法輪功を修煉していると推定した。この数字は欧米のいくつかのメディアでも引用されている⁹²。

江沢民・元共産党党首は、法輪功の人気と伝統的な価値観の復興を、自己政権への威嚇とみなし、1999年7月、「(修煉者の)名誉を毀損し、経済力を絶ち、肉体を消滅させる」暴力的な撲滅運動を開始した⁹³。



1999年の迫害開始以前に、北京の木樨地（もくせいち）で打座の煉功をする法輪功修煉者。



迫害が最初に始まった頃、数百万人の法輪功修煉者が中国全域から北京の中央政府に陳情にいった。多くは逮捕されたが、家族や友人を保護するため身元を明かさなかつたため、国家に拘束された大規模な匿名の集団となつた⁹⁴。その後、数十万人の修煉者が中国全域で拉致されるようになる。自己の信念を放棄しない者が痕跡なく行方不明となる現象が始まった⁹⁵。

1999年7月以来、中国の法輪功修煉者は強制労働所、黒監獄、刑務所、洗脳センター、軍の機密収容施設などに収監され、拷問を受けてきた⁹⁶。また、拘束中と自宅で血液検査、臓器の機能に関わる身体検査を強制的に受けさせられてきた⁹⁷。2017年5月までに、中国の公安制度は、反体制派、移民など400万人以上の個人情報を収めた国家のデータベースを構築した⁹⁸。

「江沢民主主席は、移植手術のための腎臓を売ることにかなりの力を入れ、指示しました。江沢民が命令を下してから、我々はすべて法輪功修煉者に対してかなりのことをしました…腎臓移植をしたのは軍だけではありません」⁹⁹

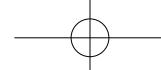
— 解放軍総後勤部 元衛生部部長 白 書忠
(2014年)

「法輪功に反対することは深刻な政治的闘争である。ハードコアの反動的な一握りのグループを取り扱う際に心が動かされてはならない」¹⁰⁰

— 元・衛生部副部長、現・中国臓器提供移植委員会理事 黄潔夫 (2001年)



北京の天安門広場で横断幕を広げて、迫害に抗議する法輪功修煉者。



7

国家が駆動する犯罪

2000年以来、中国政権は、臓器移植手術を未来の新興産業として国家戦略の優先事項に位置づけた¹⁰¹。衛生部、科学技術部、教育部、軍の全てが、移植技術の研究開発、人材養成、産業化のためにかなりの投資をしてきた¹⁰²。認定移植センターのほとんどが、政府の各レベルから多額の資金を受け取っている。新たな設備や技術の開発のおかげで、中国における移植はわずか数年で、大規模な産業化された事業となった。

中国衛生部とその後身である「衛生・計画生育委員会」は、中国の移植産業、臓器提供・割当制度に関する全般的な計画、政策決定、規制、

管理を完全に担ってきた¹⁰³。約800軒の民間病院が臓器移植に関わってきた¹⁰⁴。

人民解放軍 (PLA) は、国家ではなく政党に所属する。このような軍隊は世界でも数少ない。江沢民・元共産党党首は、法輪功撲滅のために、中国人民解放軍総後勤部に、全レベルで軍を司るコア機関としての権限を与えた。機密の拘束施設・収容所、臓器源（生体「ドナー」）の発送、臓器入手の監視を管理・監督する権力が与えられている¹⁰⁵。100軒以上の軍および武装警察の病院が臓器移植に関わり¹⁰⁶、新鮮な臓器をオンデマンドで民間病院に供給してきた。

中国臓器移植実際情況

在中国29个省、市、自治区的国立医院仅肾移植手术已经完成3万5千余例，在全国范围内，每年肾移植手术例数多达5000件以上。能完成如此数量的移植手术，是与中国政府的支持分不开的。中国政府最高人民法院、最高人民检察院、公安部、司法部、卫生部以及民政部于1984年10月9日联合颁布有关法律，确立提供脏器是一项政府支持行为。这可谓世界绝无仅有。与发达国家相比，中国在医疗设备及护理体制上，并非无可挑剔，但就脏器移植而言，手术的方式均为国际公认固定模式，在这方面中国的医学技术水平已达到世界先进行列。目前每年都有数十名左右的脏器衰竭晚期

「毎年これほどの数の臓器移植手術ができたことは、政府の支援と切り離せません。特に、最高人民法院、最高人民検察院、公安部、司法部、衛生部、民政部が共同で1984年10月9日に法規を公布し、臓器調達に対する政府の積極的な支援を確立しました。世界でも類のないことです」

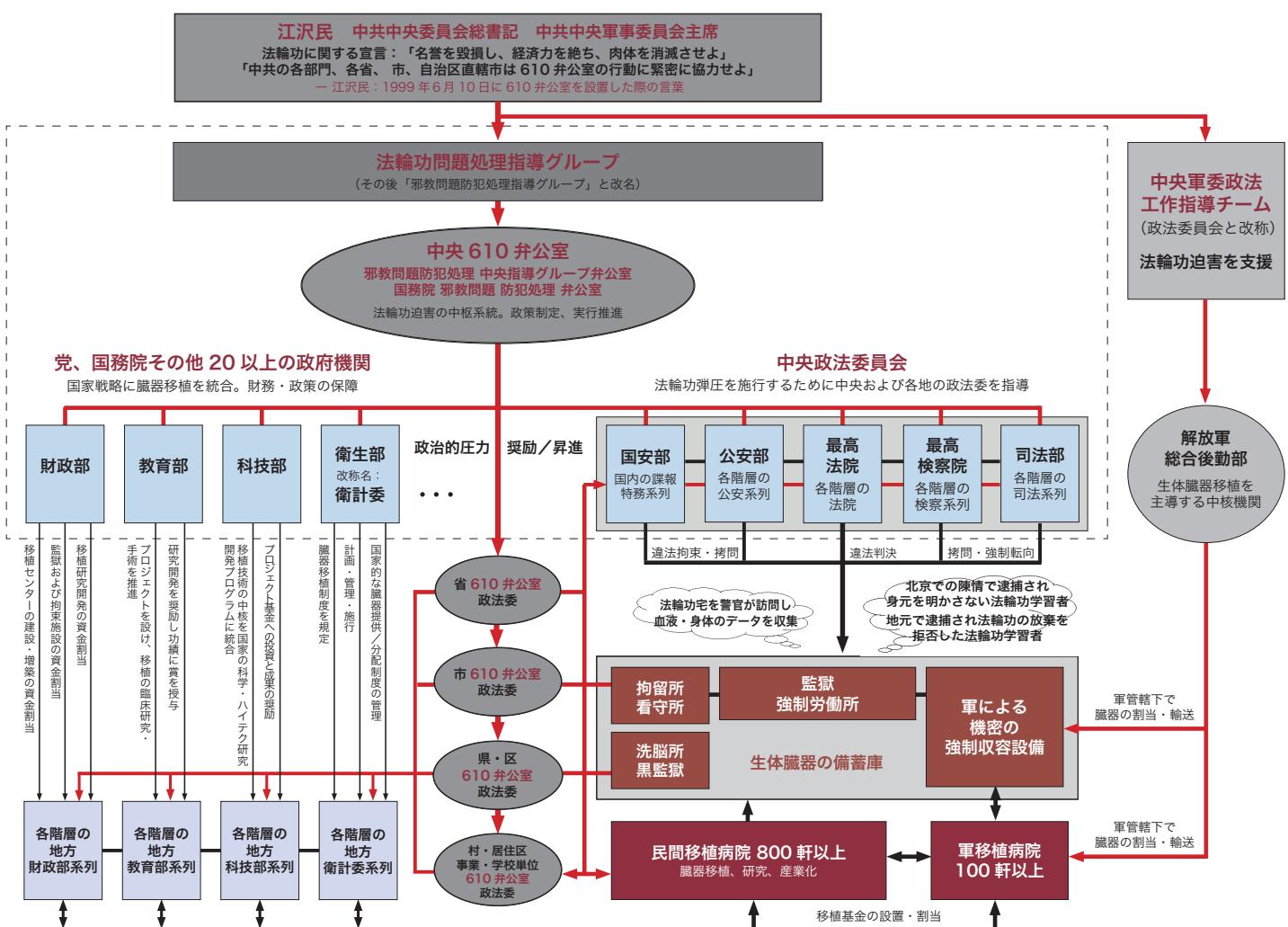
中国国際臓器移植ネットワーク・アシスタント・センター (CITNAC) のウェブサイト (アーカイブ版) より¹⁰⁷

反法輪功運動が公式に始まる以前の1999年6月10日、中国共産党幹部は、中央委員会直属の特殊部門として「610弁公室」を設置した。その組織構造は、中国共産党、政府、軍の上から下へと、くまなく拡がる¹⁰⁸。法輪功を系統的に撲滅するための、特命超法規的な権威が与えられている。この撲滅運動を実行するために、中国共産党は、国家の機構全てを動員しており、その指令には臓器収奪が含まれている

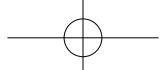
1999年7月に迫害が始まって以来、反法輪功のプロパガンダが中国全域で報道され、中国共産党直轄

メディアの海外支部と領事館を通して世界的に流布された¹¹⁰。法輪功の悪魔化と憎悪の扇動は、法輪功修煉者に対する犯罪を正当化する基盤となった。

法輪功修煉者からの臓器取奪は、国家のNo1の敵とする法輪功を破壊する共産党の運動を支持するだけでなく、民間・軍の両方の病院と医師に、蓄財と出世のチャンスを与えた。臓器移植は、長年にわたり、中共のエリートに提供される保健手当だった。この手当は国外の代表者や中国人のエリートにも拡張され、政権の「統一前線」の一環として、影響力を獲得するための手段として用いられるようになった¹¹¹。



¹¹² 強制臓器収奪における中国共産党と政府省庁の役割



8

世界への拡張と影響

中国移植センターへの初めての公開訪問



国際的な専門家が、中国の臓器入手配分制度を学ぶために病院内の臓器入手組織（OPO）を訪問。



ドナー登録をテーマとした活動に参加する移植専門家たち。



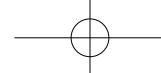
同医院内「ヒトの臓器提供記念公園」の除幕式。

中国が移植制度に「実直に窓を開く」証として、2017年8月、黄潔夫は国際的な専門家を中国の昆明市第一人民医院のカルメット国際医院への視察に招いた¹¹³。中国が移植病院を国際的な専門家に公開することは初めてのことであり、臓器提供・移植の「中国モデル」の体験となった。

専門家らはドナーの臓器が同医院にヘリコプターで運び込まれ、「グリーンの通路」を通って手術室に持ち込まれる様子を見学。臓器入手組織（OPO）の事務所を訪れ、臓器の入手・分配・移植の工程を学んだ。ドナーの家族のためのレセプションエリア、設備保管室も訪問した。

中国での臓器提供における「目覚ましい発展」に専門家らは敬意の意を抱いたが、実際は、同省での過去4年間の自主的な臓器提供数は年間平均47件に過ぎない¹¹⁴。この病院の移植件数だけでもまかなければならない少なさである。

2016年10月19日、同病院は1日16件の移植手術を行っている¹¹⁵。約140人の医療スタッフが直接手術に携わった。2017年3月、カルメット国際医院は、米オクラホマ移植センターのスタッフを招き、24時間で15件の移植手術を行った¹¹⁶。



世界への拡張

中国では、国内への渡航移植の継続に加え、国内で入手した臓器を国外の住民に提供しようと試みている。臓器を中国大陆から台湾に輸出することで「患者が中国に渡航移植する必要がなくなる」「両岸臓器移植プラットフォーム」促進のために、黄潔夫は2014年12月に台湾を訪問している¹¹⁷。

また黄潔夫は、2015年8月、中国での臓器移植を海外市場で促進した。「中国での移植手術費用は今後も世界で最も安価で、最もアクセスしやすく、最高品質を維持します」と語っている¹¹⁸。

2017年11月、中国臓器移植開発基金(COTDF)は、マカオの臓器不足を緩和するために臓器分配割当に関する合意をマカオの衛生局と締結した。マカオ、香港、台湾の居住者はすでに中国人体臓器分配共有制度(COTRS)を通して登録できる。2017年12月現在、合計519人の香港居住者、50人のマカオ居住者が、中国本土で臓器移植を受けている¹¹⁹。

これらの拡張計画はアジアにとどまらない。2017年「中国人体臓器移植会議」で、黄潔夫は臓器移植を「一带一路」構想の一部として発表¹²⁰。「一带一路」構想は、中国と他のアジア諸国、欧州、東アフリカ、オセアニア州との経済・政治の絆の強化を目的とする。

また、中国は「一带一路」構想を越えて拡張している。2017年11月、泰禾投資グループ(Tahoe Investment Group)は、米ペンシルベニア州ピッツバーグ大学医療センター(UPMC)と臓器移植の戦略的協力に関する覚書を交わした。先進技術を輸入し、臓器移植その他の項目を強化するという内容である。泰禾投資グループはCOTDF(中国臓器移植開発基金)に1億元を寄付している¹²¹。

世界への影響

中国の進歩という幻像によって、いくつかの国際機関は臓器提供と移植に関する「中国モデル」を認め、移植業界での協力を更新している。倫理的臓器源に一夜にして移行したというみせかけは、PR活動や、虚偽のデータと実施されていない計画を国際フォーラムで提示することで作り出されている。ローマ教皇庁科学アカデミー主催の臓器売買・臓器移植に関するサミットもこの一環である¹²²。

中国の移植制度は、無実の人々の殺害により継続されており、アジア諸国や一带一路地域内外での臓器分配の合意、さらには「中国モデル」の採択を願う国際機関など、世界を広域に巻き込んでいる。

「国境を越えた移植手術は船に例えられる。何年も中国は船の外を泳いでいた。今、この船に中国が飛び乗り、これまで以上に速く進むようになった」「中国の尽力が船の舵を取っている」¹²³

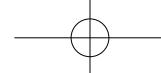
—世界保健機関 臓器提供・移植プログラムの医療理事 (2017年8月～2018年2月)

ホセ・ニューネス

「数年前中国は、移植界ではペルソナ・ノン・グランタ（好ましくない人物）だった。良心の囚人も含む、処刑された囚人の臓器を使用していたからだ。しかし、2018年7月のマドリードでの国際移植大会では150名の中国人の専門家が参加し、透明性に欠けるという疑惑にもかかわらず、中国の臓器移植をかつて批判していた者が、臓器提供制度を是認した」¹²⁴

—AFPニュース (2018年7月)





2010年3月

中国の上海、天津、遼寧、山東、浙江、廣東、江西、福建、廈門、南京、武漢で臓器提供プログラムを試験的に開始。最終的に19の省と都市に導入される。

2007年

衛生部は、違法の移植濫用は混沌とした市場が起因であるとし、2007年7月、移植病院の認定制度を導入。

1000軒以上の病院が、移植手術を継続するために申請。うち164軒が認定される。

2007年から2010年にかけて中国政権は、移植臓器源は処刑された死刑囚と言い続ける。

2013年8月

試験的な自主的臓器提供プログラムは、最初の2年で207件の臓器提供に過ぎなかった。にもかかわらず、2013年8月に中国人体臓器分配共有制度(COTRS)を全国的に拡張すると発表。

2013年11月

臓器の23%は自主的ドナーによるものとされる。164の認定移植病院のうち38軒のみが、死刑囚からの臓器の使用を停止するという「杭州決議案」に合意署名。

2014年12月

臓器の80%は自主的ドナーによるものとされる。

黄潔夫は2015年1月から中国は処刑された囚人からの臓器使用を停止すると発表。「死刑囚からの自発的な臓器提供を国家の臓器提供制度に組み込むことで、この問題の規制をはかる。統括されたこの分配システムに登録されたものは、自主的な臓器提供とみなされる。死刑囚からの臓器提供はもはや存在しない」という説明。

2015年

臓器の100%は自主的ドナーによるものとされる。中国は処刑された囚人からの臓器使用を完全に停止したと発表。

2016年6月

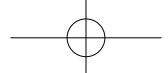
三人の独立した調査者が680ページの最新報告書を公表。中国でのオンデマンドの臓器供給と臓器移植の規模を指摘し、移植件数は中国の公式発表より遥かに多いと結論付ける。

2017年

中国によるPR活動、偽造データ、移植センターへの招聘、国際フォーラムでのプレゼンテーションを通して、一部の国際移植機関は中国が称する「改革」を認める。

2018年

中国臓器取奪リサーチセンターが336ページの報告書を発行。改革の主張にも拘わらず、中国での自主的臓器提供・監視制度は抜け殻に過ぎず、大規模に法廷外で良心の囚人(無実の人々)の臓器摘出・殺害が今なお大規模に続けられていると結論。



10

信じ込まされていることと事実

信じ込まされていること：「2015年以前は、臓器源のほとんどは有罪判決を受けた死刑囚だ」

事実：中国での移植件数は2000年以来激増し、1999年から2005年にかけて肝移植だけでも30倍に跳ね上がった¹²⁵。政府が164軒の移植認定病院に義務付けた最低要件から見て、年間に7万件以上の移植手術を行える可能性が最も高い¹²⁶。

これとは対照的に「中国での年間の死刑執行は数千人」と多くの情報源が推定しており、処刑数は2000年以来、下降している。さらに毎年10%の割合での処刑数の減少を黄潔夫自身が裏付けている¹²⁷。死刑囚からの臓器で、中国での移植件数をまかなうことは不可能である。

さらに黄潔夫は、2015年、中国は完全に自発

的臓器提供に移行したと発表している。しかし、自主的ドナー数が低く横ばいである中で、移植件数と処刑者数の格差は広がる一方で、公式発表された臓器源からでは説明がつかない¹²⁸。

中国政府は良心の囚人を法的手続きなく臓器のために殺害していることを認めていない。このため、死刑囚からの臓器は使用しないという中国側の主張には、良心の囚人は含まれていない。中国で行われている移植件数に見合うためには、大規模な殺害の継続が要されることは独立調査で示されている。しかし、中国政府は処刑された囚人について語り続け、良心の囚人の殺害から世間の目をそらしてきた。

信じ込まられていること：「2015年以降、自発的ドナーが主な臓器源になった」

事実：中国での臓器移植は1970年代に始まり¹²⁹が、2003年まで自発的ドナーの数はゼロだった¹³⁰。2010年以前の中国には臓器提供制度はなかった¹³¹。全国規模の臓器提供制度の導入は2013年10月に発表された¹³²。公式説明によると、自発的ドナーを臓器源とする割合は2013年に23%¹³³、2014年に80%¹³⁴、そして2015年1月には自発的ドナーが唯一の臓器源となった¹³⁵。他国で数十年かかるところを、わずか1～2年で完全な移行に達したとしているが、現実的ではない。

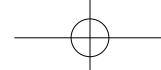
この臓器源の移行が非現実性であることの裏付けとして以下が挙げられる。

- 死体を切り刻むことを忌み嫌う長年にわたる中

国の文化

- 自主的臓器提供を保護し円滑に取りはからい管理するための機関や法の不整備
- 中国医療制度に対する国民の不信感

2017年末の時点では、公式発表によるドナー登録者数は373,536人。米国の登録者数と実際のドナー数の割合を適用させると、この登録者数が生み出すドナー数は29名に満たない¹³⁶。各地域で報告された臓器提供数（登録者、非登録者を含む）の合計を合わせても、年間10,000～15,000件という公式発表をはるかに下回る¹³⁷。しかし、164軒の移植認定病院に課された最低の移植容量は、年間70,000件を超える¹³⁸。



信じ込まされていること：「中国での免疫抑制剤の使用量から、年間1万件以上の移植数は裏付けられない」

事実：移植患者は、術後、拒絶反応を避けるため免疫抑制剤に依存する。国際社会では、臓器移植件数が激増しているのに、なぜ免疫抑制剤の国際市場に大きな成長が見られないのか、という疑問が投げかけられてきた。中国政権も、年間およそ1万件とする移植件数に見合うように、国内の免疫抑制剤の規模を操作してきた¹³⁹。

実際、中国政府は免疫抑制剤の研究開発を国家の重要な科学プロジェクトに挙げている。初期の研究開発では、多くの移植関連機関が従事していた¹⁴⁰。2004年までには、輸入および共同資本による製薬会社市場のほぼ半分に、中国国内の免疫抑制剤の製薬会社が食い込んでいた¹⁴¹。中国の移植専門病院では一般に、輸入製剤でなく国内製剤

を利用する。2006年という初期の時点でも、100社以上の製薬会社が30種近くを製剤しており、免疫抑制剤市場は100億元(1600億円)近かった¹⁴²。患者1人あたりの抑制剤の年間平均コストを3万元(48万円)とすれば¹⁴³、30万人以上の患者を支えてきたことになり、2000年以来の年間平均の患者数は、5万～6万人と算出される。

我々の調査では、2006年に中国での強制臓器取奪が初めて明るみになった後も、中国の臓器移植産業は重要な発展を続けていたことが判明している。IMSヘルス・データが示す国際的な製剤の販売量は、中国の実際の製剤市場の一部を反映するに過ぎない¹⁴⁴。

信じ込まられていること：「医師は生きている人々から臓器を強制的に摘出することはできない」

「個々の党員は党の機関に従属し、少数は多数に従属する…」¹⁴⁵

—中国共産党党章
規律に関する基本方針より

「共産主義、共産党、党員以外を自称するものは、国家の敵として扱われます。どのような罰でも受けれる対象となるのです。私はロボットになり、プログラム化されたことを行いました。国家の敵を殺害することに参与することは光栄であるという観念を植え付けられ、良いことをしているとさえ本当に思いました」¹⁴⁶

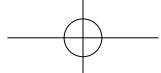
— エンヴァー・トフティ (2016年)

1995年に生きている囚人から臓器摘出を命じられたウイグル人の元外科医

「法輪功や同様の邪教は、人間の組織体を蝕むウイルスのようなもので、信者の魂を歪め、社会の秩序を乱し、経済開発を中断させ、人類にとって迷惑であり、社会のガンである」¹⁴⁷

中国有数の移植医、浙江省反邪教協会
(法輪功撲滅の責務を担う政府機関)
理事長 鄭樹森 (2009年)

望ましくないとみなされたグループの大量虐殺を正当化するために、ナチス・ドイツ政権が利用したプロパガンダに似ている。江沢民(中国共産党中央委員会総書記ならびに中央軍事委員会主席)が法輪功撲滅を命令した際¹⁴⁸、中国の臓器移植分野のリーダーたちは、党の路線を伝播し、弱者グループに対するヘイトスピーチを積極的に行った。こうして法的規制なく、いかなる手段を使っても、江沢民の意思を実践に移すために政府は医師、さらには社会全体を指揮できるようになった。



11

世界の対応

違法な移植ツーリズムを制限する法規を通過させ、この非道な行為を問責する決議案を可決するなど、世界各国の政府は中国での臓器収奪に対応してきた。主要メディアも中国での臓器収奪に関する最近の状況について報道している。

法 規

イスラエル

2008 年に臓器移植法を通過。臓器売買に関するイスラエルの指針に反する国で臓器移植を受けた場合、保険会社がコストを支払うことを禁止した¹⁴⁹。施行より 3 年で、イスラエルから中国への渡航移植はほぼ完全になくなつた。同時に国内の臓器提供とドナー登録者数が大幅に増加した。

イタリア

2015 年 3 月 4 日、イタリア元老院（上院）では、違法な臓器の取引・販売に関わる個人に対する刑罰を導入した法案が可決された¹⁵⁰。生体臓器が関与する取引を助長した者には、3 年から 12 年の禁固刑、もしくは 5 万から 30 万ユーロ（600 万円から 3600 万円）の罰金が科せられる。違法な移植ツーリズムを促進もしくは助長した医師は、生涯、医師としての資格が剥奪される。

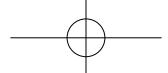
法案の発起人であるマウリツィオ・ロマーニ上院議員は「私たちには共犯者にならないためにあらゆる努力を尽くす義務があります」と語り、「特に精神修養法である法輪功修煉者」が良心の囚人の臓器源であることに言及している。

スペイン

2010 年の刑法修正では、ヒトの臓器の調達または違法売買を促進・助長・宣伝した者に新たな懲罰を導入¹⁵¹。臓器源の違法性を認識しながら移植を受けたレシピエントにも適用する。主要臓器の場合は 6 年から 12 年、主要でない臓器の場合は 3 年から 6 年の禁固刑が科せられる。

台湾

2015 年の「人体臓器移植法」では、臓器の売買・仲介行為を禁じた¹⁵²。また同法は、国外の法規にかかわらず、処刑された囚人からの臓器の利用と移植ツーリズムを禁止。渡航移植に関しては、国、病院、提供された臓器源を記録することが、台湾の病院に義務付けられている。臓器の仲介もしくは移植ツーリズムに関わる者は、罰金に加え、1～5 年の禁固刑。医師が仲介した場合は医療資格が剥奪される。



決議案

欧州議会

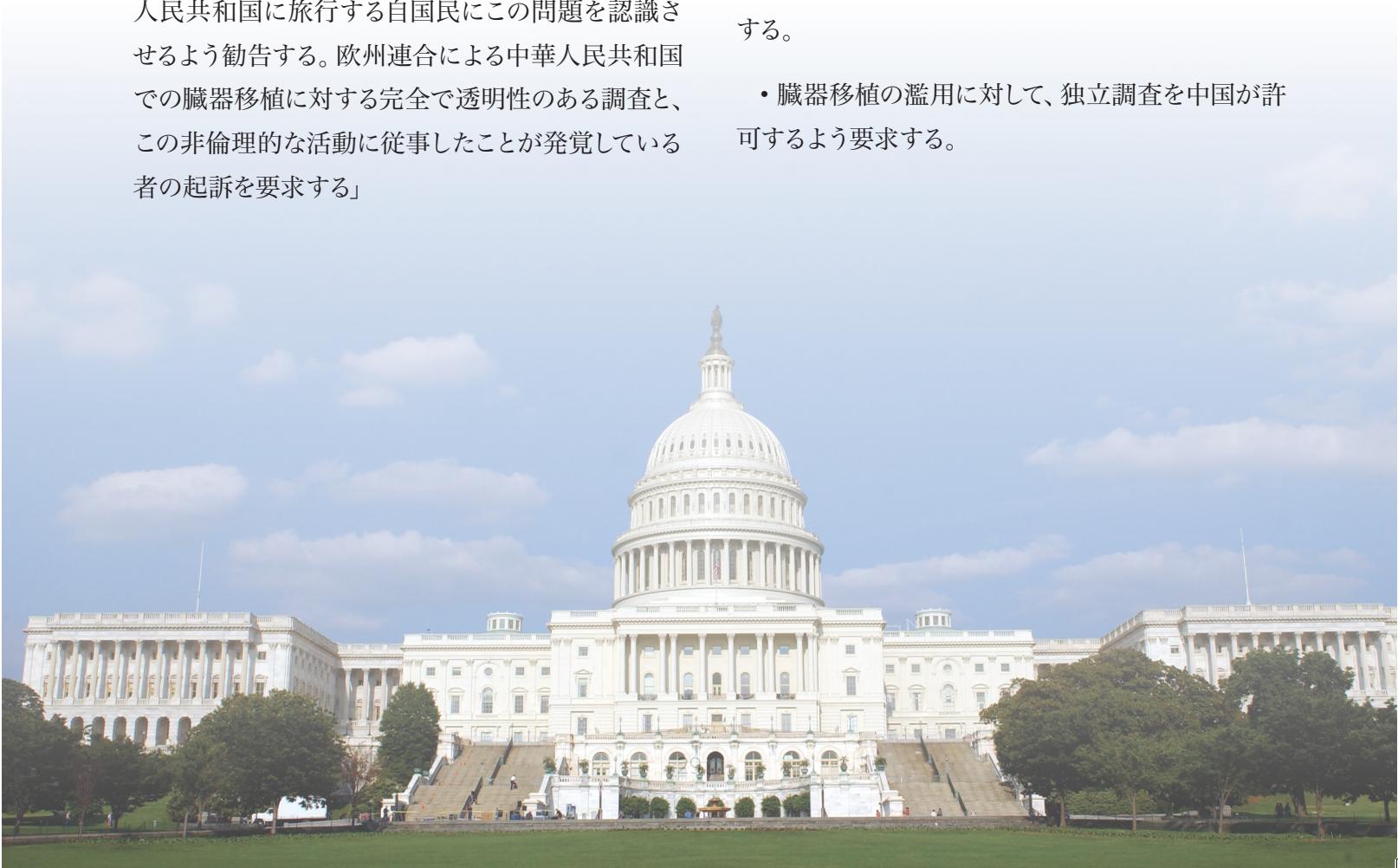
2013年12月12日、欧州議会で中国での臓器収奪に関する以下を含む決議が下された。「中華人民共和国で、良心の囚人から、合意なく、系統的に国家容認のもとで臓器狩りが行われているという、継続的で信頼性のにおける報告に深く懸念する。良心の囚人には、宗教的信念のために投獄されている多数の法輪功修煉者、その他の宗教・民族の少數派が含まれる…中華人民共和国政府が臓器狩りを即刻停止することを要求する」¹⁵³

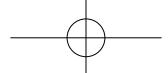
また、下記の事項も含まれている。「欧州連合およびその加盟国が中国の臓器狩り問題を提起することを要求する。欧州連合およびその加盟国は…中華人民共和国に旅行する自国民にこの問題を認識させるよう勧告する。欧州連合による中華人民共和国での臓器移植に対する完全で透明性のある調査と、この非倫理的な活動に従事したことが発覚している者の起訴を要求する」

米国

2016年6月13日、米下院で以下の内容の343号決議案¹⁵⁴が満場一致で可決された。

- ・中華人民共和国における国家が認める強制臓器狩りを問責する。
- ・良心の囚人からの臓器狩りを即刻停止することを中華人民共和国政府と中国共産党に要求する。
- ・中国での非倫理的な臓器移植の認識を高めることに貢献するよう米国の医療界を促す。
- ・中華人民共和国政府と中国共産党による、17年にわたる法輪功への迫害の即刻停止、法輪功修煉者その他の良心の囚人全ての即刻の釈放を要求する。
- ・臓器移植の濫用に対して、独立調査を中国が許可するよう要求する。





12

具体的な行動

中国国外にいる私たちはこの残虐行為を止めるために重要な役割を果たすことができる。人類に対するこのおぞましい犯罪を止めるため、あらゆる手段を通して人々の認識を高める責務がある。専門家が勧める具体的な行動を次に列記する。

政府関連

- ・ 国家、県、市町村で決議案・意見書を通過させ、人道に反する犯罪を公に譴責する。
- ・ 国内外で売買された臓器の受け取りを禁止し、非倫理的もしくは書類のない臓器源の移植のために中国に渡航することを制限し、同様の移植にかかる医療実費の給付は認めない。
- ・ 違法臓器売買に関わる個人の入国を禁止する。
- ・ 渡航警告を発行し、中国への渡航移植について自国民に警告する。
- ・ 移植のフィールドテスト・臨床試験を製薬会社が行うことを禁止する。
- ・ 国際社会による査察のために全ての拘束施設を解放するよう、中国政府に圧力をかける。
- ・ 中国での臓器移植濫用に対する独立調査を促す。

ビジネス関連

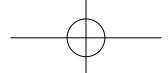
- ・ 臓器収奪犯罪の調査活動を、企業の慈善事業・社会的責任の一環として支援する。
- ・ 中国への投資を抑え、該当機関や中国政府に圧力をかけることで、非倫理的な臓器収奪の停止につなげていく。

医療関連

- ・ 個人や機関が加担しないよう、法規の制定を促進・支援する。
- ・ 中国への渡航移植をしないよう、患者にはたきかける。
- ・ 中国の移植医が専門医学会の会員になる条件として、国際倫理基準の遵守を義務付ける。
- ・ 処刑された囚人または良心の囚人の臓器が研究に用いられていないことを著者が明示しない限り、学術誌もしくは学会での研究発表を拒否する。
- ・ 非倫理的な臓器源を用いないことを誓約しない限り、中国の移植医の養成を禁じる。
- ・ 中国の政府と医療界に対して、国際的に受け容れられている倫理基準を認識させる。

NGO 関連

- ・ この人道に反する犯罪を停止するためにあらゆる措置を取るよう、政府に呼びかける。
- ・ 中国での強制臓器摘出に関する独立調査を行う。
- ・ 自己組織のプロジェクトや活動に、臓器収奪犯罪に対する認識を高める運動を組み入れる。



「無実の者を臓器のために殺害することは、ホロコーストの教訓を思い起こさせる。人類の墮落には終わりがない。中国国外の人の行為は、中国国内の人の行為に影響を与える。共犯になることを避けることは、我々のコントロール下にある。中国の臓器濫用への援助や関わりを避けるために、我々はあらゆる努力を尽くすべきである」

—国際人権弁護士 2010年ノーベル平和賞候補者 デービッド・マタス

研究・教育・メディア関連

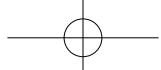
- 中国の臓器移植源に関する独立調査を行う。
- これらの犯罪を時事問題として学校のカリキュラムに採り入れる。
- この分野での最新の動向を一般の人々に知させていく。

個人

- ChinaOrganHarvest.org のサイトからこの問題を学び、広める。
- 個人や機関が共犯になることを防ぐ法規を草案し支援するように、自分の地区を代表する政治家にはたらきかける。
- 請願書に署名して、この犯罪に反対の声を上げる数百万人の仲間となる。



わずか5年のうちに、50以上の国と地域で250万人以上の人々が、中国での臓器のための殺害を停止するよう国連に求める請願書に署名している。史上2番目の大規模な署名活動となった。医師、法律家の代表が、2017年7月20日にジュネーブの国連に紙面の請願書を直に手渡した¹⁵⁵。



中国臓器収奪リサーチセンターについて

中国臓器収奪リサーチセンター(COHRC)は、2017年に設立した非営利機関で、臓器のための良心の囚人の殺害も含む、中国での臓器移植濫用について信頼のおける調査を行い提供しています。COHRCの研究員は、中国や国外の幅広い情報源から証拠を収集・分析しています。報告書の出版、政府機関やNGOへのコンサルティングに加え、COHRCは国際および国内の医学・生命倫理学の会議で調査結果を発表しています。

COHRCの主要研究員は、設立以前から中国の臓器移植制度について10年以上調査を重ね、

研究員が寄与した報告書は、CNN、ニューヨーク・タイムズ、PBS、グローブ&メール、ロンドン・タイムズなどに引用されました。

臓器のための殺人は、人道に反する犯罪であり、新しい形態の国家テロリズムです。COHRCは、この残虐行為への認識を高める責務を認識しています。この蛮行を停止し、人間の尊厳を守るために、調査者、機関、企業、政策担当、ジャーナリスト、人権擁護者の方々とのご協力を願っております。

著述・編集チーム

著述: Grace Yin, David Li, Huige Li,
Michelle Li

編集: William H. Boericke, Ann F. Corson,
Stephen Gregory

調査: 中国臓器収奪リサーチセンター

アート・ディレクター: Grace Yin

グラフィック・デザイン: Olli Törmä

謝辞

本書の内容への貢献、コメントに対して、Dr. David Matas、David Kilgour、Ethan Gutmann、Prof. Arthur L. Caplan、Prof. Jacob Lavee、Prof. Wendy Rogers、Prof. Maria A. Fiatarone Singhに特に感謝します。

独立した学者2名、中国と医療の専門家3名の方々が、実際の調査もしくは調査への支援にあたりましたが、匿名を希望されました。

表紙の画像は、Wei Jane Chirの原画をアレンジしたものです。

ChinaOrganHarvest.org/ja



COHResearch